

国立国会図書館

施設管理者 : 国立国会図書館
施設所在地 : 東京都千代田区永田町一丁目 10 番 1 号
調査見学時期 : 平成 5 年
施設概要

①特色

この図書館は本館と新館があり、新館は地下を活用したユニークな施設となっています。



地下 8 階に並ぶ書棚

②新館概要

新館は昭和 61 年に完成し、東西約 148 m、南北約 43 m の長方形で地下 8 階地上 4 階の構造となっている。地下部分は全て書庫となっており連日入庫される出版物を受け入れる体制となっており、今後 10 年間程度は大丈夫とのこと。

③なぜ地下か？

国会議事堂と最高裁判所に挟まれた位置にあるので、地上高さを抑えたため。

④地下の良い点は？

書庫は温度 22 度 C、湿度 55% に保っているが地下にあるために空調コントロールがやり易い。また、地震は殆ど感じないとのこと。

⑤不具合な点は？

書庫への浸水を防ぐために地下部分にはトイレが無く、手を洗う場所が 1ヶ所あるのみで、地下で働く人（約 20～30 人）には不具合。また、地下部分でのタバコは厳禁となっている。

⑥地下水対策

地下水の浸水を防ぐために、周囲の連壁との間に 1 m のスペースをあけるなどの工夫をしている。



地下 8 階までの吹き抜け

⑦魅力的な空間

新館の中央部分には、地下 8 階まで自然光を取り込む吹き抜け構造があり、書棚が整然と並ぶ深い地下の中で思わずホッと空間となっている。

(GEC ニュース第 51 号より抜粋)

国立国会図書館

施設管理者 : 国立国会図書館
施設所在地 : 東京都千代田区
調査見学期 : 平成2年10月23日(火)

施設概要

国立国会図書館は昭和61年度に一部を除いて完成したものである。

新館を建設するに当たっては、特に周囲との景観上のバランスから4階より高くできない事と、地下に非常に良好な地盤(東京礫層)が得られることから、東西約148m南北約43m、地上4階地下8階の細長くて下に深く延びた建物となった。現段階では、地下7、8階は未完成であるが、完成の暁には750万冊の資料が収蔵でき、本館(収蔵能力450万冊)と合わせると1,200万冊の収蔵能力となる。

地下書庫は盗難防止のため出納作業員(常時22名)以外は通常立入禁止となっている(一階にある階段入口、エレベータホールは電子ロックキーで施錠され、非常時以外は鍵にて開閉)。また、地下は書庫(出版物の永久保存)が主目的であり、空調により温度22℃、湿度55%に常に保つとともに、地下にはトイレも無く、水気をシャットアウトしている。

エレベータで地階に降りると、ブーンと古本屋の臭いが鼻に付く。廊下の壁は東側緑、西側ピンクと色別され、方角がすぐ分かるようになっており、書架の間をまわっても迷わないようになっている。

建物の西側の中央にはアトリウムがあり、地下の最下層迄光の届く光庭が設けられ、地下の書庫に一日居る人にはホッとした安らぎを与えている。

消化設備としては、初期消火用として粉末消火器を各階に3箇所ずつ設置、完全消火用にハロゲンガス消火装置を防火区画毎(各階東と西に二分割)に2系統設置し、水による消火は考えていない。

以上のように、地下の利用形態が書庫と非常に特異性のものではあるが、アトリウムを設けて完全な密閉空間とせず、書庫のイメージアップを図っている。(GECニュース第11号より抜粋)